

# 7月消費者物価3.1%上昇 ガソリン代、半年ぶり値上がり

7月の消費者物価指数  
(2020年=100)

は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が105.4で、前年同月より3.1%上がった。燃料費の下落に伴い電気代が値下がりし、上昇率は2カ月ぶりに縮んだ。ただ食品や家事用品など生活必需品の高騰は続き、政府の補助金の縮減でガソリン代も半年ぶりに上昇に転じた。▼経済総合面「夏休み物価」は

総務省が18日発表した。品目別で見ると、電気代は前月より2.8%下がった。大手電力7社が6月に家庭向けの規制料金を値上げしたが、足元の燃料費が安くなり、7月の料金は抑えられた。政府の補助金の効果もあり、前年同月と比べると16.6%下がった。

一方で、ガソリン代は前年同月より1.1%上がった。ガソリンに対する補助額は徐々に引き下げられており、店頭価格のアップにつながった。

生鮮食品をのぞく食料は9.2%上がり、4カ月連続で9%台を記録。タマゴが36.2%上昇と高値が続ぎ、アイスクリームや炭酸飲料など夏の消費が増える品物も10%を越す上げ幅だった。

生活必需品も高騰が続く。トイレットペーパーは14.8%上昇。携帯大手が7月に料金プランを改めた影響で携帯電話の通

信料も10.2%アップした。観光客の増加で、宿泊料も15.1%上がった。生鮮食品をのぞいた総合指数は23カ月連続で上昇した。(米谷陽二)